



Special Talk

JALふるさとアンバサダー
恒松さやかさん(人吉市出身)

益城町長

日本航空株式会社 代表取締役社長

西村博則 × 赤坂祐二

北海道出身、60歳。昭和62年、整備士として日本航空に入社。平成30年、代表取締役社長に就任。

阿蘇くまもと空港 新ターミナル開業への期待

赤坂社長 益城町で町長と直接お目にかかるのは令和3年の連携協定締結式以来、約1年半ぶりですね。

町長 協定締結後、町に社員を派遣していただき、連携した取り組みを進めることができているので、大変ありがたいと思っています。

赤坂社長 私どもにとって、益城町といえば阿蘇くまもと空港なので、町との連携が深まるのは大変ありがたいと感じております。いよいよ、来年3月に空港の新ターミナルが開業を迎えますね。

町長 新ターミナルは、「地域に開かれた空港」をコンセプトとされています。航空機利用者だけではなく、観光目的の方や地域住民が気軽に立ち寄れるエリアも充実するのので、町への来訪者の増加を期待しています。

赤坂社長 私もターミナルのリニューアルを機に、益城町をはじめとした熊本県への来訪者が増えることに大きな期待を寄せています。また、阿蘇くまもと空港は、空港で使用する電力を再生可能エネルギー

ギーで賄うなど、カーボンニュートラルやSDGsへの取り組みも進めておられると聞いています。

町長 環境問題を考え取り組む空港として、町としても大変期待しております。本町は、「空港があるまち」として企業誘致などに大きくアピールしているところで、町中心部から空港へのアクセス整備も検討しています。

赤坂社長 そうなれば、さらに益城町や周辺の地域もにぎわいますね。

町長 阿蘇くまもと空港を起点として、空港周辺だけではなく、県全体の自治体ににぎわいづくりにつながるための、架け橋のような町になればと考えております。

町の復旧・復興

赤坂社長 空港のリニューアル以外にも、震災からの復興に向けたさまざまな事業が展開されていると聞いています。町の状況はいかがでしょうか。

町長 多くの皆さまのご支援があり、復旧はほとんど完了し、復興も着実に進んでいます。県道熊本高森線の4車線化事業や中心市街地の土地区画整理事業も進んでおり、来年3月には町役場の新庁舎も完成し、5月に業務を開始する予定です。このように、「ハード面の復興」は進んでいます